

「ヴェントリー＝サイクル劇（XIX）

橋

本

侃

第一二十七番演目「最後の晩餐」

[写本百四十六頁]

（一）

イエス おお、エルサレムよ、神の定めは痛ましい！

その大迫害の日には、

痛ましい悲嘆とともに、汝は破壊され、

その榮華は混乱に至るはずだ。

都に住むあなたたちは

産まれた時を呪うはず

あまりにも大きな不運と悲しみが

朝も夕も四六時中、市民たちの身に降りかかるであろう。

(2)

子供のいる者たちが直ぐさま悲しみの声をあげ、「なんと悲しいことだ これはなんの意味だ」と叫び。食べ物も飲み物も突然に足りなくなり、

神の復讐を目にする。

その時が近づいている 悲しみがおこり、混乱と大きな嘆きの日が来る。

寺院も塔もすっかり崩れ落ちてしまう。

おお、エルサレムよ、汝の定めは痛ましい！

(3)

ペテロ 主よ、じこで過ぎ越しの膳を囲みますか？

お願いです、お教え下さい

そうすれば、用意が整えられます。

誰にも邪魔されずにお給仕できます。

ミハネ 主よ、あなたのご出立にそなえ、

従順そのものでお仕えしましよう

あなたのために、すべてを「用立ててしましよう、

どのような場所にわたしたちをお遣わしになつても。

(4)

イエス 皆にはシオンへ行つてもらいたい。

行けば、一ぱりした衣服を着た貧しい人が、
水を運んで通りを行くのに出会うだらう。

その人にわたしが来ると伝えなさい。

優しく声をかけなさい

その人の家にわたしがゆく と。

その人は断わりことは言わず、

思いどおりのことを黙つてさせてくれるだらう。

(5)

ペテロ 主よ、お望みどおりにいたします、

その場所を捜しに、急いでまいります。

ヨハネ できるだけ急いでゆきます

ご命令を必ず果たします。

〔いいで、ペテロとヨハネは水の入った缶を運ぶハンセン病のシモンに出来た。〕

(6)

ペテロ　善き人よ！　わたしたちの主である預言者のイエス様が

今夜はあなたの家の大広間でお休みになられます。

ご伝言を託してわたしたちをここへよこされました

主の食卓を調べてください。

主と弟子たちが皆で

過ぎ越しの膳を囲むので、

手に入るのならどんな羊でも生け贅として用意してください。

主はあなたと過ぎ越しの膳を一緒に締したいのです。

(7)

シモン　なんですつて！　主がわたしの所をお訪ねになるんですつて！

訪れられるその時が祝せられますように！

ほんの数刻あれば、調べましょ、

わたしの善い主を心からお迎えするために。

みなさん、先ずはお入りになつて、

お出しする食べ物を、とくとく覗ください。

わたしにはこのお報せがとても嬉しい、

これから味わう喜びがどんなものになるのか想像もつきません！

百四十七

「イイ」で、弟子たちはシモンと一緒に家に入り、神が定めたキリストの到来を喜ぶ。」

(8)

イエス この道は聖靈が定めた玉髓であり、

わたしたちをしかるべき所へ導いてくれるはずだ。

わたしを愛してやまない友だちのおかげで、

食料の調達がすんだのですね。

さあ、わたしたちは前に進もう、平和のうちに歩き続けよ。つ。

人を愛するためには、わたしはこの道を行く。

聖靈の目で見ると、わたしには確かに分かる、

人が人のために最期の時を迎ねばならないことが。

「イイ」で、弟子たちはキリストのもとに集まる。」

ペテロ 主よ、わたしたちの定めは調いました。

あなたにとつて喜ばしい定めとなりますように！

シモンがあ求めに応じて調えました

あなたがいらっしゃることを大変に喜んでいました。

(9)

過ぎ越しのお膳を楽しく囲むためのものです。

あなたがいらっしゃると聞いた時、

シモンは大きな喜びを体全体で表しました。

〔（二二）で、シモンが家から出てきてキリストを迎える。〕

（10）

シモン 恵み豊かな主よ、よつこそいらっしゃいました！

神であり人間でもあるあなたをあがめます。

ご覧のよつて、わたしの貧しい家は

わたしと同様に、あなたの僕であることを承知しています。

（11）

イエス 喜びという喜びがあなたに溢れていますね。

シモン、あなたの本当の気持ちが分かります。

あなたに天の喜悦を取り戻させてあげよ、

そのむくいをあなたに進呈しそう。

〔（二二）で、キリストは弟子たちとシモンの家に入り、生け贋の羊を食べる。その合間に、場面が突然に変わり、議場が現われる。主教、聖職者、ユダヤ人たちが居並び、会議が進行中の様子である。〕

左百四十七頁

390

395

(1)

アナス 見る！ われわれがしていることはみんな無だ！
すべての物事についてなどわれわれに予言はできぬ。
どれだけの数の人民が奴のもとに引き寄せられているか、お前たちにわかるか
奴の起こした奇跡のせいだ！

(2)

何か巧みな仕掛けを他に搜さなくてはならない
奴をこのまま放つておくことは、どうしてもできない！
ならば、この議論を抜け目ない結論へと導いて行かねばならない。
さもないと、ローマ人たちがわれわれに災いをもたらすだらう。

(3)

ローマ人たちは、われわれの財産を取り上げ、罪を咎め、
人民のすべてを思うがままに牢獄へ引き立てることになるだらう、
もし、奴一人の言つことを人民のすべてが信じるならば、だ。
それゆえ、いとこよ、お願ひだ、最善の策を口にしてくれ。

カヤバ 皆の者 これから言つことに注意を向けよ。

われわれ全部にとつて都合がいいのは

すべての人民の代わりに一人の男に死んでもらえることだ

人民のすべてが非業の最期を遂げて滅び去るよりはずつといい。

（4）

それゆえ、後悔しないよう賢く事を進めよ。

してもいらない偽りの行為を奴の仕業にする必要がある。

個人的には、奴を火炙りにしてやりたい、

われわれみんなが道を迷わされるくらいなら。

それゆえ、奴と組んでいる人間なら誰にでも金の不自由をさせないようこゝ

可能なかぎり巧妙に、すべてを偽り事にさせてしまうのだ。

さあ、この中の誰が、最善の進言をしてくれるか見てみたい

この男の破滅を定めるためだ。

（5）

ガマリエル もうこれ以上ぐずぐずせず、

手早くイエスを捕まえましょ。

追随者たちをみんな混乱させ、

牢屋に、ぶち込み、

長持ちする鉄の足鎖を掛けでやりましょう

奴が正義に対する悪行を重ねて いるからです。

その後で、われわれは

奴を大いに 軽蔑してやつてから、急いで死刑の判決を下すのです。

(6)

リュウヴァン 奴がわれわれの法律を侵害しているので、

それが一番の判決であると思えます。

奴を荒れ馬で刑場へ引きずつてゆき、

その後で、火炙りにしてやりましょ。う。

(7)

リヨン 皆さん、奴の一言をわたしも聞いています

「わたしはユダヤ人すべての王だ」と言つてました。

この言葉だけでも奴に死んでもらうに十分だ。

ローマ皇帝への反逆のかどで訴え出なくてはならない。

(8)

わたしの知つて いる者たちに奴は いつも 言つて ました

「エルサレムの大寺院を破壊すべきだ、

必ず、破壊でさへ。

そして、三日目に再建してみせる」と。

(9)

人々は強要されたのです、

奴がしたすべての仕業を信用するよひに」。

奴が言うには、「天国において、わたしが支配する」そうです。
神であり人間でもあると自称しています。

リュウヴァン 今日の一日をかけて、考えるべきです、

イエスにどのよしむな恥ずかしい死に日にあわせてやるかを。
しかし、奴には悪さをあまりしかけられない
われわれの掟の尊厳を損なわないためにも。

(10)

リヨン 奴を絞首門に吊るしましょう。

この判決が穏当であると思われます

國中の人間に奴を注目させ、

反逆の大罪に氣を向けさせなくてはなりません。

(11)

リュウヴァン しかし、皆さん、一つのことについて注意しなくてはなりません。

いかなる手段を使うのであれ、奴に近づくことが肝要です
奴には、今この時にも、たくさんの追随者がいるからです。

(12)

アンナス 皆の者、その件についての忠言がぜひとも必要だ。

解散する前に、意見の一致を見なくてはならない。

どのようにしたら、奴をわれわれの意向どおりに捕まえられるのか

それについて、なんらかの方策を見つけなくてはならない。〔場面が変わる。〕

(1)

マグダラのマリア わたしという女は呪われた者として、

悲しみにすっかり閉じ込められ、

また、淫らな恥知らずとして、嘆きにすっかり包み込まれている。

今までに神の恵みが少しも与えられない女は一人としていなかつた
今こうして歩いているわたしのような女は。

百四十九〇帖

悲しい、悲しい、わたしは破滅するのだ、

今までに犯してきた大罪のせいで。

わたしの主である神がいくらかでも斟酌してくれて、

大きな愛によってわたしを迎えてくれるのでなければ！

マグダラのマリアと云うのがわたしの名前です。

さあ、キリスト＝イエスのもとへゆけ。

の方は、すべての徳の主であるから、

急いで、ほんの少しの愛でもいいから求めにゆけ！

この身がひどく恥ずかしい。

(2)

ああ、主よ、愛をお与えください、わたしを罪から救つてください。

あなたは血の物をわたしから洗い落として自由にしてください。

男が血族にいる女で

こんなにも罪にまみれた女はどこの国にもいなかつた。

森でも沼地でも至る所で、身を汚されてきた。

そして、多くの町で罪を求めた。

しかし、主よ、わたしを救つてください　わたしは火炙りなる！

真つ黒な悪靈たちと永遠に一緒にいる定めなのです。

それゆえ、愛の王よ、

ここにある、とても香りのいい油を

あなたの聖なる足にぬらせてください。

そして、主よ、わたしに罪の贖いをいくらかでもさせてください、
わたしの過ちに愛をください！

(3)

イエス 女よ、泣きたい気持ちがあなたにあるのだから
神は救いのいくばくかをお前に与えてくれよう。

あなたを救つためにする偉大な業がわたしにはある。
なぜなら、悲しむ心があればこそ罪を償つことができるからだ。

あなたのすべての祈りを実現させてあげよう。

あなたの善い心だけに気を配り、

邪まな大罪から救つてあげよう。

そして、七つの悪魔からあなたを守つてあげよう。

さあ、ご覧、悪靈たちがあなたから逃げ出すぐ

悪靈ども、お前たちに命じる、

この女の体から逃げ出せ！

わたしの恵みのうちに、いつまでも花と咲ぐのだ、
あの女を死が命を失わせるまで。

(4)

マリア　主よ、このような大きな恵みに感謝します。

今や、七匹の悪魔はわたしから逃げ出してしまいました。
これからは逸脱した行為と罪過に踏み込むことは決していたしません
ことばやおこない、思いにおいても、また、それを罪と知りつつも。

いまはもう、悪霊の囮みから外に出され、

あなたの大きな愛の中にしつかり閉じ込められました。

罪の道に一度と戻りません

その道はわたしを地獄の穴に導き落とすはずだった！

このように膝をつき、あなたを崇めます。

ここにあなたを捜し当てることができた時が祝せられますよいにー！

そして、ここまで持ってきたこの塗り薬によつて、

今が今、わたしの心はきれいに洗われた、

最初は心労に取り付かれていた考え方から。

左百四十九

500

505

510

(5)

ユダ 主よ、わたしにはあなたが本当に悪い事をしたと思われます、

そんなに油を撒き散らせるなんて！

それを売つていれば、もつと道理にかなつた行いだつたでしように、

貧しい人たちに食べ物を買ってやれましたのに！

その入れ物の方もいい値がついたはずです、

ぴつたり三百ペニスはしたでしよう

たくさんの食べ物が買えたはずです、

わたしたちの貧しい親族を食わせてやれましたのに！

(6)

イエス その貧しい人たちは待つていてくれるだろう。

お前はこの女性に向かつて悪口を言つてゐる。

ここでわたしはしばらく時を過ぎてから

この女性の嘆きの歌は愛についてだ。

〔ここで、キリストは休憩し、少し物を食べる。座つたまま、弟子たちとマリアに語りかかる。〕

(7)

心から残念に思つてゐることがあるが、
それは不思議なことでもなんでもない。

間違いを一つも犯していなければ、わたしは死へ赴く。

それにもかかわらず、わたしが心をひどく痛めているのは、このことだ
わたしの兄弟の一人が善からぬことで脅しをかけるだろう。

ここに座つてゐるあなたたちの一人がわたしを裏切らうとしている。
あなたたちの一人がわたしの死を懸命になつて図らうとしている、
わたしが一度として罪の場所にいたことがないというの！」

それゆえ、わたしの死はひどく恥ずかしいものとして用意されてゐる。

(8)

ペテロ わたしの愛しい主よ、お願いです、本当のことを語つてください、
わたしたちの誰がそのような裏切りを行つのですか。

どんな裏切り者が自分の主を売り渡そうとしているのですか、

主よ、こんなに悲しい目にあわせてゐる、そ奴の名をはつきり口にしてください！

ミハネ 売り渡すような者がいるとしたら、

善い師よ、わたしたちにそいつの名前をあからさまに告げてください。

あなたのもとから去つて行くのはどんな裏切り者なのでしょうか！

そいつは悪辣な裏切りをすることで、大きな恥をかくことになるでしょう。

(9)

アンドレア そのような裏切りを考え付くなどとは、本当に恐ろしいことだ――

さらにもつと恐ろしいことは、そのような悪い行いを実行に移すことだ。

そんな悪辣な裏切りをすれば、そいつは地獄へまつ逆さまに落ちて行くだらう、
終わりのない痛みのうちで、大きな災いの日々を送るだらう――

大ヤコブ 主よ、それはわたしではありません

人に疑いをかけるのがわたしには怖い。

そのような罪を犯そなごという考え方など、わたしの頭には少しも浮かばなかつた。
もしも、このわたしがあなたに血を流させるために、あなたを売り渡すとなれば、
そのような裏切りをすることで、わたしの魂は破滅することになるでしょう。

(10)

マタイ 愛しい主よ、ああ、悲しいこと、

誰がそんなにも狂つてしまつたのか、

金貨銀貨のために自分自身を殺してしまつとは――

金貨や物欲のために、あなたを売り渡すような奴は

自分の大きな貪欲さのために自分をも殺すことになるのだ。

バーソロミュー そんな邪悪な考え方を持つ奴が誰であれ、

わたしたちと共にいる愛しい主よ、 そいつの名前をすつかり吐き出してください。

そんなを行いを実行しようとして、 自分の利益にだけ専念する奴は
大きな過ちのせいで、 魂は迷いに迷うに違いない。

(11)

フィリポ 金貨や銀貨や宝は直ぐに消えてなくなるものだが、
あなたの恵みは終わりなく永遠に続くのです。

あなたを金と引きかえるような奴の、

自分の主を売り渡すような奴の、 罪は非常に重い。

小ヤコブ そのような恐ろしい脅かしをするような裏切り者は

体も魂も失つてしまつと考えられます。

主のお顔から遙か離れて地獄に落とされ、

悪辣な悪霊と一緒に混じつて、 苦しみに身もだえする定めだ。

(12)

シモン そんな裏切り者は、 なんと商売の下手な商人なのだろう！
とゞのつまりは、 その金のせいで、 嘆き悲しむに違いない。

悲しいことだ、 恵みの王を売り渡すのにどんな理由があるのか！

そ奴が金銭を獲得すれば、その悪辣さのせいで、悪魔が取り付くだろう。

トマス 奴の悪辣な裏切りのせいで、真つ黒な悪靈たちが

奴の魂を地獄の穴底へ深々と運んでいくだろう。

氣の休まることなど全然なく、眠ることなどできず、

牢獄に閉じ込められ、灼熱の焰に焼かれるのだ。

(13)

タタイ そ奴が誰なのか分からぬが、本当に不思議に思つ

わたしたち兄弟全部の中に混じつて、このような罪を犯すのは誰だ！

悲しいことだ！ 恵みなどなにもなく、自滅したのだ。

自分の魂を深い地獄の土牢の中で苦しむままにさせるのだ。

イエス わたしが食べる食べ物を食べることから、その男の過ちは始まったのだ。

その恐ろしい仕業のせいで、悲嘆がその男を襲うだろう、

せつかく、豊かな物を手に入れたのに、残念に思うに違いない。

そして、そのような罪深い行いのせいで、産まれて来なければ良かつたと願うに違いない。

(14)

コダ あなたたちと同じようにわたしも真実を知りたいと思つています。

それゆえ、書き人よ、わたしに眞実を言つてください、

その裏切り者というのはわれわれ全部のうちのどの男なのかを。

あなたを売り渡そうとしているのは、このわたしですか？

イエス お前はそのように言つのか

言つ言葉には注意しなさい。

お前がそのような裏切りをするかどうかを、いま、この場でわたしに尋ねるのか？
忘れるな、よおく自分に尋ねてみることだ。

お前は分別ある歳をしているのだから、何が穩當であるかを知つていよ。

〔――〕で、ユダはいつそりと立つ。すると、場面が変わる。〔与本殘余の百五十一頁と左

百五十一頁は田舎〕

(一)

ユダ さあて、内緒の裏切りをしてやるうとしたが……

それは俺の先生の力を無しにするためだ。

俺様ユダは、ちょっとした理由からやつてみようと想つてこゝへ、

奴をユダヤ人たちに売り渡すのだ。

奴の身柄と引き換えに、いくらかの金高を口にしてみよう。

内緒の手段を使ってやってみよつ、

百五十一(一)帖(590)

俺の田論見を実行に移そう
これ以上、ぐずぐずするつもりはない。

(2)

聖職者の長がいるといいのだが……。
その人のところへゆこう。

行つて俺の望みを伝えよ。

きっと奴らを嬉しがらせるに違ひない。

俺を喜ばせようと、金を出そうと言い出したが、

金のことを諦めるつもりはないからな。

奴らの貪欲さを田覚めさせておいて、

俺の先生の所へ連れて行こう。

(3)

やあ、聖職者の皆さん、いらっしゃいますな！

新しい報せをあなた方にお伝えしようとやつてきました。

もしも、わたしの望みに従つつもりがおありなら、

わたしの先生のイエスをあなた方に売り渡しましょう

奴の望みと田的を無しにするためです。

なぜなら、奴の捷に従うことは、やつしたくないのです。

幾らにするとわたしが言い出すまで、ちょっとお待ち下さい。

それが決つたら、わたしの先生のイコスを縛り首にし、ハツ裂きにしてやりましょひ。

(4)

ガマリエル やあ、コダよ、歓迎だ、もうお前はわれわれの友達だ！

わあ、監さん、この方の手を取つて 仲間に加えましょう。

あなたにお金を用立ててもやるし、お貸しもしましょひ。

めどが立たずに口争いになつても、お味方になります。

(5)

リュウヴァン コダよ、お前の先生と引き換えて、

さて、何を支払つてやうつかな？

お前に下す銀貨も用意してあるし、わらわれの意見も一致している

支払いを遅らせるなどしないから、

一聲かけてくれれば、この場につづ高く積もつ。

(6)

コダ 金はいじへ積んでください。

そうすれば、知つてることでお話しましよう。

古い言葉で言われているのを、前に聞いたことがあります

「金は商人を作る」とね

(7)

リュウヴァン さあ、ここに光り輝く銀貨三十枚がある。

その袋の中に、急いでしまい込め。

それが終わつたら、後は、今夜、お前の先生を捕まえることだけだ。

その袋と一緒にわれわれの友情のすべても手に取れ。

(8)

ユダ あなた方は売買の道理をわきまえていらっしゃる大商人ですね！

この取引きをあなた方と結びましょう。

奴をぶちのめせ！ どうぞ好きなように振舞つてください。

お金だけは手放すつもりは全然ありません。

(9)

リヨン さて、この取引はすっかりすんだ。

双方どちらも元に戻れない。

しかし、ユダよ、急いでわれわれに教えてくれなくてはこまる
どのような手段を使って奴を捕まえたらしいのか？

(10)

リュウヴァン そのとおりだ、奴を見たこともない人がたくさんいる。

それなのに、奴のところへわれわれと一緒に人を向けようとしている。

それゆえ、何かの印によつて、当の本人だと分からなくてはならないし、
その印を、われわれの間だけの内緒にしておかなくてはならない。

(11)

リュン そのとおりだ、どのよつなものであれ、その印に氣をつけていなくてはならない。
着ているもののことだが、誰が弟子やら先生やら区別がつかぬこともあれば、
もしも、お前たちが全部同じものを着ていたら見分けがつかん!
そうなつたら、われわれの口論見は失敗するかもしねり。

(12)

コタ 皆さん、その件に関しては、お疑いなく
わたしのがうまく決めておきますので、あなた方が失敗することはないでしょ。
皆さんのが奴の回りを取り囲んだ時に
わたしが接吻する男を捕まえてください。

(13)

さあて、先生の所へ帰らなくてはなりません。

650

645

百五十三

640

皆さん、疑つてはいけません、この件に關してはすべてが確かに決りましたよ。

ガマリエル ュダよ、さよなら、われらが友よ、
お前の労苦を充分に認めてやるからな。

(14)

「ダ さあて、人目を忍んで行つて、先生をもう一度探し出し、
俺さえ見たこともないようないい顔をしてみせよ。」
俺は奴を売つて、悲しみと痛みへ追いやつてしまつたので
奴が悲嘆にくれるのは確かだ。

「二二」で、「ダは弟子たちの間にこいつそり忍び込む。」

(15)

アンナス 皆の者、見る、われわれの意向の一部がかなつた
イエスを捕らえるために、もう備えをしなくてはならぬ、
巧みに多数の人数を参加させねば、
危険を冒して戦つような我慢強い奴らを。

(16)

ガマリエル めいめいをそれぞれの分遣隊に組ませよ。
かがり火と、手提げランプと、たいまつに火をつけ、

今夜こそ、用意を整えて奴のいる場所へ向かうぞ、まさかないと、だんびらに刀を携えて。

(17)

カヤバ もはや遅れをとることなく、めいめいの者をそれぞれの位置につけ、用意を整え、この件に関しては人目に立たぬよう命を下せ、今日のこの夜に、すべてをすませるようだ。

「……」で、主教たちは持ち場に散り、めいめいは手振りで別れを告げ、部下たちを部隊ごとに、それぞれの位置につけさせ、キリスト捕縛の用意を整える。直ぐに場面はキリストが座つている所になり、弟子たちがテーブルを分に従つて囲んでいる。」 左百五十二

(1)

イエス 兄弟たち、わたしたちの前に据え置かれたこの羊は

わたしたちが皆、今晚食べるものだ。

わたしの父がモーゼとアーロンに命じられた、

イスラエルの子供たちとエジプトと一緒にいた時にだ。

(2)

おいしいパンと一緒に羊を食べ終わった、

にがいクローバーとも一緒に。

そして、両足を持つて羊の頭を手に取るのだ、
どのような場合でも、その一人がしたよ。元

(3)

そして、一人が立つたのと同じよ。わたしたちも羊の前に立つのだ。

そして、レニュウ産の亜麻布を腰に巻き、

足に靴を履き、手に錫杖を持ち、

われわれが食べているように、一人も急いで食べた。

このような形式がなくなつても、もう一つの新たな形式は続くだらう。
あなたたちは頭であるわたしの体の一部となるのだ。

このことは一つの神祕によつて、あなたがたに示されるであらう、
パンの形のうちに込められる、わたしの肉と血の神祕によつて。

(4)

そして、わたしは心に愛情を強くもち、

わたし自身の過ぎ越しのお膳を囲みたいとひたすら望んできた。

わたしが自分の受難をこつむる前にあなたたちに混じつて食べるのだ。

このように言つのも、わたしたちが一緒に囲むのは、このお膳が最後だ。

過ぎ越しの食卓で生け贋の羊を食べるのに、

百五十四〇帖) 690

古い捷では、羊が一つの犠牲として使われた。

それと同じように、新たに犠牲となる新しい羊はこのわたしだ。

犠牲のために大変な代価が支払われることになるだろう。

〔二二〕で、イエスは聖餐用の薄いパンを取り、天を見上げ、父へ語りかける。」

(5)

そのために、永遠である天の父に向かつて、

感謝と敬意を捧げます。

神性に関しては、あなたとは対等ですが、

わたしには人間性がありますので、より低い位置にあります。

それゆえ、一人の人間として神性を崇めます。

この神祕を明らかにしてくれる父に感謝します

父よ、あなたの力によつて、また、わたしが祝福することとで、パンであつたものから、わたしの体が造られました。

〔二二〕で、弟子たちに向かつて、言葉を続ける。」

(6)

兄弟たちよ、繰り返されるこれらの言葉の力によつて、
あなたたちはパンに見えるこのものが

わたしの肉と血そのものとして造られたのだ。

このことを、救われたいと思つ者は信じなくてはならない。

(7)

そして、古い掟にあるよひに もつとも、これは戒律として教えられたのだが、
むごいエジプト王の力を無効にさせるために、この羊を食べるよひにと。
そのよひに、あなた方の魂の敵を破滅させるために、この事が続けられるだらう、
地の果てまで、あなたたちの過ぎ越しの羊の代わりとして。

(8)

なぜなら、ここにいるのは罪の汚点が一つもない小羊そのものである。

これについては、洗礼者ヨハネが預言している
この預言の冒頭で、

ヨハネは言った、「コノ神ノ小羊ヲ見ヨ」と。

(9)

そして、この小羊をどのように食べるかを教えておひり、
古い掟が明細に記しているのとまったく同じ形で

わたしが靈的な解釈によつて明らかにしたように。

それゆえ、わたしが言つことにたいして、よいか、あなたたちの意思で應えてくれ。

(10)

にがいパンと一緒に、「このパンを食べてはいけない。

言いかえれば、憎しみとねたみという憎悪をもつて、このパンを食べてはいけない。

その代わりに、愛と思いやりというおいしいパンと一緒に食べなさい

そうすることと、あなたたちの魂はことのほか強くするはずだ。

(11)

そして、このパンをにがいクローバと一緒に食べなくてはならない

これが表す意味は、もしも人が罪深い性向にあれば、

この世で罪深い生き方をしてきたことになる。

それゆえ、心の中に深い悔恨を持つことになるだろう。

(12)

同様に、「足つきの頭を食べなくてはならない」。

頭によつて、わたしの神性を理解しなくてはならない。

足によつて、わたしの人間性を解釈しなさい。

この二つのものを共に受けなければならぬ。

左百五十四

720

725

(13)

わたしがあなた方に与えるこの汚点の無い小羊は

神性だけがあるのでない。

神性も人間性も同時にあることを信じなくてはならない。
そのように、足つきの頭を、一人一人が受けなければならぬ。

(14)

この小羊を食べきれずに、もし幾らかでも残つたのなら、
清い焰に投げ込み、焼くべきである

このことが表す意味は、これらすべてのことが少しも理解できないのならば、
あなたの信仰を神に預けなさい。そうすれば、破滅することはありません。

(15)

しつかり締めるように命じられたレーヌの亞麻布帯は
清潔と貞節の帯にならねばなりません。

他の言い方をすれば、言葉と考へと行いに節度を保つことで、
すべての淫らな生活は捨て、そこから逃げ出してしまつことだ。

(16)

そして、足の上に履く靴は

高潔な生き方の実例に他ならない。

あなた方よりも以前にいた、あなた方の姿がたちをした父たちは
これらの靴を履いて、わたしの足跡について歩かなくてはならないだろう。

(17)

そして、手に握るであろう錫杖は

他の人たちに教える実例に他ならない。
しっかりと手に握って、大胆であるように、
一人残らずわたしの捷を説教するためだ。

(18)

また、この過ぎ越しの小羊を急いで食べなくてはならない
このことこそが、教えが伝える意味そのものだ。
いつなんどきも、用意していなくてはならない、
わたしの捷を実現させるためには。

(19)

なぜなら、今日去ることになつても、あなた方には確信がいかないだろう、
明日になれば去るものかどうかも。

それゆえ、いつでも急いで懸命に仕事をしなさい、

百五十五

745

750

755

わたしの撻を守るために、それを疑う必要はない。

(20)

これで、すっかりあなたたちに教えた、

わたしの貴重な体である過ぎ越しの小羊の食べ方を。

これから、天使の食べ物を皆に食べさせてあげよつ。

それゆえ、一人ずつ出てきて、これを受けなさい。

(21)

ペテロ　主よ、この聖なる食べ物を受ける時には

何がしかるべき方法なのか、わたしの理解力を超えていきます。

なぜなら、誰も自分自身の実体を持つことができません

それを受けけるには、あまりにも大きい崇敬の念を持つからです。

(22)

なぜなら、主よ、これ以上においしい食べ物をわたしたちが戴くことはできません、

あなたご自身の貴重な体より他には。

それゆえ、言葉とないと行いにおいて犯している罪に対しても、

主よ、深い悔恨をもつて、あなたの慈しみを求めます。

〔――〕で、主はその体であるパンを弟子たちに与える時、ユダを除いて、それぞれに言

う。】

(23)

これはわたしの体 肉と血だ。

左百五十五 (770)

左百五十五 (770)

わたしはあなたのために十子架の上で死ぬことになる。
〔イイ〕で、〔ダが弟子たちの最後に来る。〕

(24)

〔ダよ、手に入れようとしている物を手に取るように勧めよ。〕

〔ダ 主よ、わたしはあなたの体を見捨てません。〕

(25)

〔エス わたしの体をあなたに拒むつもりはない。〕

それについて自分が大胆にも口にすることになつたら、

それがあなたの破滅の原因となるだら。

前もつて、今、そのことを警告しておく。

〔イイ〕で、〔ダはパンを受けると、前と同じ場所に座る。〕

(26)

あなたの方の一人がわたしを裏切つた。

わたしの食卓でわたしと一緒に食べた者だ。

その者のためににはその方が良かつただろう」、

産まれてこず、親がもうけなかつた方が。「弟子たちは互いに見つめ合ひ。」

(27)

ペテロ　主よ、それはわたしではありません!　〔弟子のすべてが同じ様に言ひ。〕

コダ　主よ、もしかして、それはわたしですか?

イエス　コダよ、その言葉をお前が口にするのか?

友であつたわたしをお前は売つたのだ。

その結果、お前は破滅の原因を自ら呼び込んだのだ。

〔二二〕で、コダはコダヤ人の所へ再び行く。コダを迎えるコダヤ人が次の台詞を言つのもいい。」

(28)

悪魔　ああ、ああ、わが愛しのコダよ、

俺にとつてお前は産まれた者のうちで一番の奴だ。

地獄の苦痛のうちに、王冠をかぶせてやる。

それについては、とこしえに安心させてやる。

(29)

お前は自分の先生を売り、食べもした。

百五十六(2帖)

785

780

790

奴を地獄へなんとか連れて来れたらよかつたと思うが、
それだと、悲しんだり、嘆き声など上げたりされかねないから、
地獄に売り渡す俺に向かつて地獄中が声を上げて泣き叫ぶだろつ。

(30)

お前が始めた事を急いでやりとげる。

俺はお前を迎える用意を調べるために地獄へゆかなくてはならない。
直ぐに住みなれるはずの所へ来なくてはならない。

焰と悪臭の中で、俺のそばに座らせてやる。「場面が変わる。」

(1)

イエス 今や、このわたしのが神の御子であることが明白になり、

子の中の神の存在も明らかになった。

ユダが恵みを失ったのは気の毒だ

そのせいで、ユダは悲しみと嘆きに向つことになるだろつ。

(2)

しかし、今や、わたしの受難の思い出として、
天の統治においてわたしと役を分け持つために、

あなたがたは心をくだいて、わたしの血を飲まなくてはならない
その血は人間の愛のために流されるのだ。

(3)

新しい契約であるこの聖杯を取り、
この事を永遠に心に留めておくように。

心からの気持ちを込め、できる限りしばしば、これを行いなさい。
そうすることと、悪魔からあなたたちは守られる」とになる。

〔（二）〕で、弟子たちが来て、血を受ける。〕

これはわたしの血、人間の罪のために

わたしの心臓から流れることになる。

〔（二）〕で、弟子たちはもう一度、前と同じ場所に座る。〕

(4)

兄弟たち、わたしのしたことに注意を向けなさい、
わたしの肉と血をあなた方に食べさせた。

人を愛そうとして、これ以上のことはできない、
人を愛するために死ぬこと以上に。

(5)

五百五十六

810

805

815

それゆえ、ペテロとあなたたちのそれぞれは
わたしを愛するなら、わたしの子羊を養いなさい。
教えを忘れて道を間違えないように、
いつもしっかりと心を養うようにしなさい。

(6)

あなたたちに『いそひしたよひ』、わたしの体を『『えなさい』。
わたしの言葉によつて、そのことは聖とされるだろう。
そして、このよひ、わたしはいつまでもあなたたちと共にいる、
世の果てまで。

(7)

わたしの体を食べ、わたしの血を飲む人は
神であり人間であるわたしを受け入れるのだ。
そうすることで、狂つた悪魔から身を守ることができる
その人をわたしは死にぎわに捨てるこつは決してしない。

(8)

もしもわたしの体も食べず、わたしの血も飲まない人は誰でも、
そのような人の一生は無だ。

自分のためにこゝことなので、このことを肝に銘じておき、

一人残らず人は自分を善く救うようだ。

〔こゝで、イエスは水を張つたたらいを取り、タオルを肩に掛けるとペテロの前に膝を
つべ。〕

(9)

イエス もつ一つの見本を示しておこへ。

どのように隣人愛に生きるのかを。

言葉少なく、こゝへ座り、

わたしのするがままにさせなさい。

〔こゝで、たらことタオルを取る。〕

(10)

ペテロ 主よ、わたしに何をしようとしているのですか！

このような奉仕を受けることを断固として拒否します！

わたしの両足を洗うことなどさせません！

あなたからそのような奉仕を受ける価値がわたしにはありません。

(11)

イエス ペテロよ、わたしがしようとしている奉仕のすべてを

百五十七

835

840

もし断わるのであれば、

わたしとのいかなる関わりをも絶つこととなり、
わたしの恵みに至ることは決してない。

ペテロ　主よ、その件に関しては無視できませんので
主の掟を守りましょ。

お願いします、頭も手も洗つてください
お望みどおりにわたしたちはなんでもします！

〔――〕で、イエスは順繰りに弟子たちの足を洗い、タオルで拭き、優しく接吻した後で、
腰を下ろす。〕

(12)

イエス　友よ、このように足を洗うことを広めなさい。

皆はわたしのことを「主」や「先生」と呼んでいる。
確かに、わたしはそのとおりの者だ。

しかし、皆の足を洗つたのだ。

このことを覚えておくのだ。

お互ひに他の人にしてあげるのだ。

へりくだる心を持つて、平等に服従を遂げるのだ、

あなたの方のそれぞれが互いに兄弟であるからだ。

(13)

皆よ、わたしをこれ以上に喜ばせてくれるものは何もない
人が送る一生のうちで

隣人愛に生きる人たちの一生ほど喜ばしいものはない。
天国において、そのむくいをしてあげよう。

わたしが事を前に進める時が来た、

預言を実現させるためだ。

今夜、わたしのためを思つて心配してくれ、

多くの人々がわたしについて泣いてくれるだろう。

(14)

なぜなら、預言者たちがわたしについて話している
わたしが受ける死について語つてゐる。

その死からわたしは逃げるつもりはない。

代わりに、人間の罪のために償いをするつもりだ。

(15)

今夜、わたしはあなたたちから連れ去られ、

あなたたちの方は、恐れから、わたしから逃げ出しちまうだらう。
 あなたたちの名を呼んでも、誰もあえて口をきくとはせずに、
 何人かはわたしを見捨てる。

(16)

あなたたちのためにわたしは死に、再び立ち上がる。
 三日目にわたしの姿を見るだらう、
 あなたたちより前に行つて、ガリラヤの地を
 歩いている姿を。

(17)

ペテロ　主よ、わたしは決してあなたを見捨てません！
 どんな危険な目にあつても、あなたから逃げ出すことはしません。
 主よ、むしろ死んだ方がましいです、
 あなたを一度でも見捨てるくらいなら！

(18)

イエス　ペテロよ、もっと知つておかなくてはならない、
 よいが、その約束をあなたは守れない。
 なぜなら、鶏が二度鳴く前に

三回も、わたしを見捨てるはずだ。

(19)

しかし、わたしにとつて愛しい友達のすべてよ、
ゆこひく、時が近づいた。

この場所にこれ以上留まつていることはできない、

なぜなら、ベタニアへ歩いて行かなくてはならないからだ。

時は来た、日は近づいた。

わたしの死に向かつて急がなくてはならない。

さあ、ペテロ、仲間の皆を、陽気にさせてあげなさい——

わたしの肉体は恐怖に打ち震えている。

[――]で、イエスはベタニアへ向かう。弟子たちは悲しそうな面持ちで付き従つ。」
「――、「最後の晚餐」が終わり、第二十八番演目の「裏切り」へ続く。」